

児童の現状・課題

令和7年度全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現の記述問題において、正答率が全国と比較すると10ポイント程度低くなっている。

課題として、指示とされたことに対しては的確に取り組むことはできるが、自分自身で計画を立てる力は弱い。前向きに物事に向かおうとするポジティブさや粘り強さが低い傾向にある。

具体的な手だて①

見通す場面で、学習過程やねらいを話し合わせ、明確化(視覚化)し、挑戦したいと思えるような課題を選択させる。

学び続ける力を育むための重点目標

成功体験を増やし、学びを自ら進めるという意識を高める。他者との関わり合いを通して、理解度や進捗を振り返りながら選択学習ができるようにする。

具体的な手だて②

選択する場面で、相手や目的に応じて、学習過程や思考ツール等を自ら選択できる時間を設定する。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	67%	80%	
⑧取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など、学び方を自分で選び、学習をすすめることができる。	76.3%	85%	

具体的な手だて③

見直す・振り返る場面で、どのくらい分かっているのかを自分や友達と確認し、修正しながら学習できるようにする。

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	70.8%	80%	
⑦授業では、学習課題や学習過程等、児童生徒が学び方を選択する場を選択している。	70.8%	80%	

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫
・日々の授業の報告やスタンダード授業改革シートの共有ができるような classroom を設定し、児童に選択した学び方等を実施しているかを振り返られるようにする。
・管理職の授業観察等の際は、指導案を教員にも配布するとともに、授業を年3回以上参観する。

総括(7月)

授業計画を立てる際に、「選択肢6の選択」を積極的に取り入れ、児童の主体性や積極性を高められるようにする。協働的な学びを通して、教員の導く授業への変容により、児童が学びを得ることができるようになっていく。見通す場面や振り返る場面でも、選択や協働的な学びも取り入れ、自己理解やポジティブさ、粘り強さを身に着けた児童の育成を目指していく。

総括(1月)